学校番号	1015

平成 31 年度　福祉科

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	7 実教　福祉 304　「こころとからだの理解」　（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2 年生で学んだ、知識、技術を踏まえ事例、事象通して、現在の介護現場での問題について考察し、解決できるように自ら考えられる力をつけられるように学習します。

2　学習の到達目標

高齢者の自立した生活の支援のために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得し、介護実践に活用できる能力を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	介護を必要としている人に関心をもち、介護を必要としている人に援助できるようにこころとからだの仕組みについて学んだ上で実践的な態度を身につけている。	現在の介護について自分の身近な問題から課題を見つけ、解決できるように思考を深め、基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、表現する能力を身につけている。	介護を必要としている人に援助できるように、こころとからだの仕組みを理解し、具体的な介護場面で適切に活用できるようにしている。	現代の介護について社会の変容や特色から理解し、介護に関する基礎的な知識を身につけると共に介護の必要性、あり方について理解している。
評価方法	学習状況の観察。ノートやプリントの記述。	ノートやワークシートの記述。 定期考査等。	ビデオ視聴などで、事例検討しレポートの作成。 定期考査等。	学習状況の観察、ノート、プリントの記入、発表、定期考査等。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期 中間(4・5・6月)	障害の理解	・障がいの基礎的理解 ・障がいの種類 ・発達障がい	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	 ○	a:障がいについて関心を持ち、理解しようとしている。 b:障がいがもたらす生活機能障がいを踏まえ、障がい者が安全に日常生活を送るための支援方法について考察している。 c:障がい者に対する安全な支援方法を身につけている。 d:障がい者の実態を理解している。	1．中間、期末考査の成績、プリント、レポートなどの提出物の有無、や学習活動への参加態度などで評価。
前期 期末(6・8・9月)	障害の理解	・ダウン症 ・知的障がい ・身体障がい	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:障がいについて関心を持ち、理解しようとしている。 b:障がいがもたらす生活機能障がいを踏まえ、障がい者が安全に日常生活を送るための支援方法について考察している。 c:障がい者に対する安全な支援方法を身につけている。 d:障がい者の実態を理解している。	2．中間と期末の成績70％、プリント、レポート20％、学習活動の参加10%。
後期 (10・11月)	認知症の理解	・認知症による症状 ・認知症の主な病気 ・認知症の人の特徴、行動 ・認知症に伴う日常生活への影響	○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○ ○	 ○ ○	a:認知症の種類、特徴、症状について理解する b:認知症患者とその家族の支援のあり方について考察している。 c:認知症患者の実態を理解した上で安全な支援方法を身につけている。 d:認知症患者と家族の実態を理解している。	1．中間、期末考査の成績、プリント、レポートなどの提出物の有無、や学習活動への参加態度などで評価。
後期 期末(12・1月)	認知症の理解	・認知症患者の家族への支援 ・認知症高齢者の現状 ・認知症に関する施策	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:認知症患者と家族の実態について関心をもっている。 b: 地域における認知症高齢者の支援体制について理解する c:事例を通して認知症患者とその家族の支援方法を身につけている。 d:認知症患者とその家族の実態を理解している。	2．中間と期末の成績70％、プリント、レポート20％、学習活動の参加10%。

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。